

社団法人 日本天文学会 2009 年度事業報告書

2009 年度は本会創立 102 年目、社団法人設立後 75 年目にあたる。

I. 世界天文年

1. 天文巡回展：「ガリレオの天体観測から 400 年：宇宙の謎を解き明かす」を、国立博物館などと立案し展示を行った。国立科学博物館(2009. 5. 30. ～7. 20.)、仙台市天文台(7. 25. ～8. 30.)、新潟県立自然科学館(9. 5. ～10. 4.)、名古屋市科学館(10. 17～11. 29.)、大阪市立科学館(12. 5. ～2010. 1. 31. 予定)、その他。
2. 全国同時七夕講演会を開催(7 月 3 日～12 日)した。36 都道府県の 97 会場で行い、65 会場集計で 4,600 名の参加者があった。

II. 出版物の刊行

1. 欧文研究報告(Publications of the Astronomical Society of Japan)：第 61 巻 1 号～6 号、特別増刊号 1 号、2 号の計 8 回刊行。総論文数 180 編(うち Letter 7 編、すぎく特集 37 編)、総頁数 2,062、発行部数 1,950 部、偶数月の 25 日発行、科学研究費補助金(学術定期刊行物。日本学術振興会)820 万円を受領。
2. 天文月報：第 102 巻 1 号-12 号を刊行。総頁数 840、総目次 10 頁、発行部数 3,200 部、毎月 20 日発行。
3. 年会予稿集：2009 年春・秋季年会の 2 回発行、総頁数 606 頁、各 850 部印刷。
4. ジュニアセッション：春季講演予稿集 111 頁、600 部印刷。
5. 春・秋公開講演会：本年は冊子を作らず、資料をコピーしたものを配布した。
6. シリーズ「現代の天文学」全 1 7 巻が(日本評論社)刊行された。

III. 年会の開催

1. 2009 年春季年会(大阪府・堺市)
 - ◇ 年会：3 月 24 日(火)～3 月 27 日(金)
大阪府立大学(堺市)の 17 会場(口頭発表用 8 会場、ポスター発表用 9 会場)を使って開催された(年会開催地理事：小川 英夫氏)。
 - ・ 参加者：861 名(別途ジュニアセッション・教育フォーラム参加者 265 名)
 - ・ 講演数：646 件(口頭 420 名、ポスター 226 名)他にポストデッドライン講演 1 件。
 - ・ 懇親会：3 月 25 日(水) 学術交流会館 参加者 327 名
 - ◇ 記者会見：3 月 23 日(月) 14:00～ 学術交流会館多目的ホール
学会各賞の簡単な紹介後、年会講演から 3 トピックスを選び、4 社の報道機関と会見し資料を提供した。これに関連する報道は全国紙 1 紙に 1 件の記事として掲載され、地方紙やインターネットでも複数掲載された。
 - ◇ 特別講演：3 月 25 日(水) 15:10～
「Fermi ガンマ線宇宙望遠鏡の半年間の成果」講演者 深沢 泰司氏(広島大学)
 - ◇ ALMA 特別セッション：3 月 26 日(木) 17:00～「ALMA への期待」について 4 氏より報告・講演があった。
 - ・ プロジェクトの進捗報告 井口 聖氏(日本側プロジェクトマネージャー)
 - ・ 銀河形成 森 正夫氏(筑波大学)
 - ・ 宇宙の物質進化 相川 祐理氏(神戸大学)
 - ・ 惑星系形成 小久保 英一郎氏(国立天文台)
 - ◇ 天文教育フォーラム：3 月 24 日(火) 17:00～18:30 参加者約 130 名
教員免許更新制導入に伴い毎年 10 万人にも及ぶ講習会受講者がでている現状に鑑み、「学校教員の持つべき天文ミニマムとその支援」をテーマに天文教育普及研究会と共催で開催され、それぞれの立場から次の 5 つの報告をいただいた。予想以上に参加者の関心の高さが伺えたが、過密気味なプログラムのため、議論の場が持てなかったのは残念であった。
 - ・ 「現場教員から」渡辺 洋一氏(大阪市立玉出中学校)
 - ・ 「教員を養成する立場から」高橋 真聡氏(愛知教育大学)
 - ・ 「普及経験者の立場から」高梨 直紘氏(国立天文台)
 - ・ 「研究者の立場から」関口 和寛氏(国立天文台)
 - ・ 「物理学会の教育支援の現状」谷口 和成氏(京都教育大学)
 - ◇ ジュニアセッション：3 月 26 日(木) 10:00～12:00、14:00～16:00 参加者 265 名
第 11 回ジュニアセッションを開催し、講演数 51 件(口頭発表 47 件、ポスターのみの発表は 4 件)。タイの生

徒 10 名が来日して、3 件の発表を行った。天文教育普及研究会・高校生天体観測ネットワークと共催、日本惑星協会・大阪府立大学・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・堺市教育委員会・大坂市立科学館の後援を頂いた。

- ◇ 林忠四郎賞受賞記念講演：3 月 25 日(水)18:00~18:30 参加者約 200 名
杉山 直氏(名古屋大学・教授)「宇宙マイクロ波背景放射をめぐる冒険」
- ◇ 研究奨励賞受賞記念講演：3 月 26 日(木)16:10~17:10 参加者約 150 名
井口 聖氏(国立天文台・准教授)「サブミリ波電波干渉計、そして ALMA/ACA」
稲田 直久氏(理化学研究所・特別研究員)「The SDSS Quasar Lens Search」
- ◇ 保育室：7 家族、子供 10 名の利用があった。
- ◇ 公開講演会：3 月 28 日(土)13:00~17:00 府立大学学術交流会館多目的ホール 参加 96 名
「新しい望遠鏡で未知の宇宙をさぐる ~ガリレオの驚きから 400 年、果てしない宇宙の謎を間近に~」
・「想像を超えた激動の世界を見る X 線望遠鏡」：名古屋大学・教授 國枝 秀世氏
・「遠くの宇宙に第二の地球を探す赤外線望遠鏡」：大阪大学・教授 芝井 広氏
・「光では見えない闇の世界をとらえる電波望遠鏡」：大阪府立大学・教授 小川 英夫氏
・「見えないブラックホールをとらえる電波望遠鏡」：国立天文台・教授 井上 允氏

本講演会でアンケート調査を実施し、50%以上の回収率で回答が得られた。今後の講演会の広報や内容編成の参考にしたい。

世界天文年 2009 日本委員会・大阪府教育委員会・堺市教育委員会・大阪市教育委員会・大阪市立科学館・日本惑星協会・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社大阪本社・日本経済新聞社・大阪日日新聞・毎日放送・朝日放送・KBS 京都・サンテレビジョン・ラジオ関西・ラジオ大阪・FM 大阪・エフエム京都・大阪府立大学の後援で実施された。

2. 2009 年秋季年会 (山口市)

- ◇ 年会：9 月 14 日(月)~9 月 16 日(水) 山口大学(山口市)の 10 会場(口頭発表用 9 会場、ポスター発表用 1 会場)を用い、山口大学理学部の後援を受けて開催された(年会開催地理事：藤沢 健太氏)。山口観光コンベンション協会より、年会開催に対して 35 万円の補助金を頂いた。
 - ・参加者：828 名
 - ・講演数：647 件(口頭：405 件、ポスター：242 件)
 - ・懇親会：9 月 15 日(火)18:00~ 第二学生食堂「きらら」 参加者 372 名
- ◇ 記者会見：9 月 13 日(日)14:00~ 大学会館
年会講演から 2 つのトピックスを選び、10 社の報道機関と会見し資料を提供した。これに関連する報道は、全国紙 3 紙に 3 件・地方紙 3 紙に 5 件の記事として掲載され、NHK のローカルニュースでも報道された。
- ◇ 天文教育フォーラム：9 月 14 日(月)17:00~18:30
当会パブリックアウトリーチ活動の現状と問題点を洗い出し、活動を考え直す趣旨で「学会によるアウトリーチ支援のあり方」をテーマに開催され、それぞれの立場から次の 4 つの講演をいただいた。盛んな議論の後、天文教育委員会を中心に検討を進めて、何らかの改善策を打ち出したいとして結びとした。天文教育普及研究会と共催。
 - ・戒崎 俊一氏(理化学研究所)「自然科学研究者の立場から」
 - ・黒田 武彦氏(兵庫県立西はりま天文台公園)「社会教育施設の立場から」
 - ・千頭 一郎氏(鹿児島県立鹿屋高校)「学校教員の立場から」
 - ・原 辰彦氏(日本地球惑星科学連合・建築研究所)「他学会の状況」

- ◇ ジュニアセッション：ポスターのみの受付を行い 3 件の発表があった。

- ◇ 保育室：7 家族、子供 8 名の利用があった。

- ◇ 公開講演会：9 月 12 日(日)13:30~16:00 山口大学・大学会館ホール 参加者 110 名
「宇宙の観測~歴史の中と最先端と~」
 - ・「宇宙から来る不思議な粒子~宇宙線の研究最前線~」：戒崎 俊一氏(理化学研究所・主任研究員)
 - ・「日本の天文史跡めぐり：星座のもう 1 つの楽しみ」：松尾 厚氏(山口県立博物館・学芸員)

世界天文年 2009 日本委員会・山口県教育委員会・山口市・山口市教育委員会・県立山口博物館・防府市文化振興財団・防府市青少年科学館・NHK 山口放送局・tys テレビ山口・KRY 山口放送・yab 山口朝日放送・エフエム山口・朝日新聞社・毎日新聞社・読売新聞社西部本社・中国新聞防長本社・山口新聞社・日本経済新聞社・山口大学の後援で実施された。

IV. 各賞の授与

春季通常総会（大阪府立大学・Uホール）の場で、次の方々へ2008年度の各賞を授与した。

1. 天体発見賞・天体発見功労賞・天文功労賞

◎ 天体発見賞（6氏(グループ)19件）

- ・市村 義美氏：超新星 2008A の発見、超新星 2008hi の発見
- ・板垣 公一氏：超新星 2008B の発見、超新星 2008R の発見、超新星 2008dv の発見、
新星 わし座 V1721 の発見、超新星 2008fv の発見、超新星 2008gz の発見、
超新星 2008hz の発見、超新星 2008ij の発見、超新星 2008in の発見
- ・藤田 康英氏：超新星 2008L の発見
- ・金田 宏氏：新星 はくちょう座 V2468 の発見
- ・西山 浩一氏・椛島 富士夫氏：新星 はくちょう座 V2491 の発見、新星 いて座 V5579 の発見、
新星 へびつかい座 V2670 の発見、新星 へびつかい座 V2671 の発見
新星 さそり座 V1309 の発見
- ・小林 隆男氏：超新星 2008ip の発見

◎ 天体発見功労賞（9氏(グループ)11件）

- ・板垣 公一氏：超新星 2008ax の独立発見、超新星 2008bt の独立発見
- ・山本 稔氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- ・中村 祐二氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- ・長谷田 勝美氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見、新星 へびつかい座 V2670 の独立発見
- ・工藤 哲生氏：新星 はくちょう座 V2468 の独立発見
- ・西村 栄男氏：新星 へびつかい座 V2670 の独立発見
- ・櫻井 幸夫氏：新星 さそり座 V1309 の独立発見
- ・板垣 公一氏・金田 宏氏：彗星 D/1896 R2 の再発見
- ・広瀬 洋治氏：超新星 2008ie の独立発見

◎ 天文功労賞（1氏1件）

（長期的な業績）

- ・北尾 浩一氏：天文民俗学における活躍

（短期的な業績） な し

2. 研究奨励賞（2氏2件）

- ・井口 聖氏：国立天文台・准教授
研究テーマ：「アルマ建設におけるアタカマコンパクトアレイのシステム設計・開発」
- ・稲田 直久氏：理化学研究所・特別研究員
研究テーマ：「可視光広域サーベイデータを用いた重力レンズクェーサーの探査」

3. 林忠四郎賞・欧文研究報告論文賞

◎ 林 忠四郎賞（1氏1件）

- ・杉山 直氏：名古屋大学・教授
研究の表題：「宇宙マイクロ波背景放射に関する理論的研究」

◎ 欧文研究報告論文賞（2編）

- ・論文：“Pre-Processing of Galaxies before Entering a Cluster”
PASJ, Vol. 56 (2004) pp. 29-43
著者： Yutaka FUJITA
- ・論文：“Atlas and Catalog of Dark Clouds Based on Digitized Sky Survey I”
PASJ, Vol. 57 (2005) pp. S1-S386
著者： Kazuhito DOBASHI, Hayato UEHARA, Ryo KANDORI, Tohko SAKURAI, Masahiro KAIDEN,
Tomofumi UMEMOTO, and Fumio SATO

V. 総会・評議員会および理事会

1. 総 会

2009年春季総会

日 時：2009年3月25日（水）16:30～18:00

場 所：大阪府立大学・Uホール（大阪府・堺市）

議 長：國枝 秀世氏（天文月報2009年6月号 p404 議事録参照）

2009 年度秋季総会

日 時：2009 年 9 月 15 日（火）16：30～18：10
場 所：山口大学・大学会館ホール（山口市）
議 長：國枝 秀世氏（天文月報 2009 年 12 月号 p827 議事録参照）

2. 評議員会

日 時：2009 年 1 月 31 日（土）13:00～16:50
場 所：東北大学東京分室・サピアタワービル 10F(東京・八重洲)
議 長：家 正則氏（天文月報 2009 年 4 月号 p295 議事録参照）

日 時：20089 年 3 月 26 日（木）12:00～13:10
場 所：大阪府立大学・総合教育研究棟 1F 会議室（大阪府・堺市）
議 長：渡部 潤一氏（天文月報 2009 年 6 月号 p404 議事録参照）

日 時：2009 年 6 月 27 日（土）13:00～17:00
場 所：東京大学理学部 4 号館 1320 号室(東京・本郷)
議 長：望月 優子氏（天文月報 2009 年 9 月号 p568 議事録参照）

日 時：2009 年 9 月 15 日（火）12:10～13:50
場 所：山口大学・共通教育棟 2F 会議室（山口市）
議 長：筒井 亮氏（天文月報 2009 年 12 月号 p825 議事録参照）

3. 理事会

日 時：2009 年 1 月 10 日（土）11:00～16:30
場 所：国立天文台三鷹 南研 1 F 大会議室（東京・三鷹市）
議 長：國枝 秀世氏（天文月報 2009 年 4 月号 p292 議事録参照）

日 時：2009 年 3 月 25 日（水）12:00～13:15
場 所：大阪府立大学・総合教育研究棟 1F 会議室（大阪府・堺市）
議 長：國枝 秀世氏（天文月報 2009 年 6 月号 p402 議事録参照）

日 時：2009 年 6 月 13 日（土）13：05～17：15
場 所：東京八重洲ホール 5F 512 号室(東京・八重洲)
議 長：國枝 秀世氏（天文月報 2009 年 9 月号 p565 議事録参照）

日 時：2009 年 9 月 14 日（月）13:10～15:15
場 所：山口大学・共通教育棟 2F 会議室（山口市）
議 長：國枝 秀世氏（天文月報 2009 年 12 月号 p823 議事録参照）

VI. 委員会、選挙、共催・後援等、民間の賞・助成、その他

1. 委員会関係

- ◇ 欧文研究報告編集委員会：2009 年度は、194 編の論文が投稿された。通常号を 6 回、増刊特集号を 2 回、合計 8 回発行し、掲載論文総数 180 編、総ページ数は 2,092 頁となった。増刊特集号では「すざく」の特集論文、おおぐま座 SU 型矮新星の光度変化に関する論文を掲載した。
トムソンロイター社より公表された 2008 年の Impact Factor は、4.429 へと大幅に上昇した。これは、2007 年の増刊特集号（「すざく」、「あかり」、「ひので」）の効果によるものと考えられる。
- ◇ 天文月報編集委員会：第 102 巻 1 号～12 号、総ページ数 840 頁、総目次 10 頁、発行部数 3200 部、毎月 20 日発行、月報記事投稿用アップローダーの新設、林忠四郎賞シリーズ新設など。
- ◇ 年会実行委員会：2009 年度日本天文学会春季年会（3 月 24～27 日・大阪府立大学）および秋季年会（9 月 14～16 日・山口大学）を開催した。準備にあたっては、1 月 8 日（木）および 7 月 1 日（水）に年会実行委員会を国立天文台において開き、プログラムを編成した。
- ◇ 天文教育委員会：年会時の公開講演会と天文教育フォーラム（共催）を開催した。2010 年度以降開催分について

でも準備を開始した。ほとんどの検討は随時電子メールで行っているが、年会時に1回ずつ面談での委員会を開催した。講師派遣プロジェクトについて議論し、より有効に機能するよう体制・内容の修正を行うための検討を開始した。

- ◇ 選挙管理委員会：第18期（任期2010年1月1日～2013年12月31日）の評議員選挙を、定款及び評議員選挙施行細則に従って、2009年5月20日～6月19日を投票期間として行い、2009年6月23日に開票作業を行って、10名の評議員候補者を選出した。
- ◇ 林 忠二郎賞選考委員会：天文月報2009年10月号(学会ホームページでも)で候補の推薦を会員にお願いし、11月10日締切で候補が推薦された。12月24日国立天文台・三鷹での選考委員会で林賞1件・論文賞2編を選考し、評議員会に推薦することとした。
- ◇ 研究奨励賞選考委員会：2009年度(第21回)の研究奨励賞受賞候補者3名を選考し、評議員会に推薦することとした。
- ◇ 天体発見賞選考委員会：2009年度の天体発見賞候補者及び天体発見功労賞候補者、天文功労賞受賞候補者を選考し、評議員会に推薦した。
- ◇ 内地留学奨学金選考委員会：2010年度の内地留学奨学金奨学生の募集を行い、応募者から1名の奨学生(12万8千円の支給)を決定した(天文月報2010年1月号参照)。なお、2009年度は1名の奨学生に22万円の支給を行った。
- ◇ 早川幸男基金選考委員会：渡航旅費補助者の募集を年4回行った。延べ37名の応募者(うち5名は滞在費援助希望)から18名(うち3名は滞在費援助)を採択した。ここ数年の平均的な応募者数であり通常の年と同程度の援助を行った。1名の辞退者が出たため予定援助額を割り込み、援助額は244万円となった。滞在費の援助は前年第62回から運用を始めたが、まだ全応募者に対する滞在費希望者の割合は14%とあまり高くはないものの、採択者では3割弱となりで一定の役割を果たしはじめている。今年は新型インフルエンザの発生に伴い、特に発生直後に大学によっては発生国への渡航自粛の措置が取られ、混乱が予想された。しかし、渡航延期が1件あった以外に大きな影響はなかった。最後に、佐藤明達氏より当基金へ寄付を頂いたのでここに深く感謝したい。
- ◇ ネットワーク委員会：事務所内計算機を常に適正な状態に保守し、重要データ等のバックアップを適切に行った。また、必要性の議論が起きている天文学会ホームページの改善に向けての第一歩として、学会Webサイトに対する意識と希望を聞くアンケートを会員に対して実施し、集まった44名の意見をまとめて発表した。更に、この調査結果で望む声が多かった入会手続きのWebページからのオンライン化に着手し、2010年度から運用することになった。
- ◇ 天文教材委員会：2009年4月の科学技術週間に、国内の小中高校、科学館に配布した「一家に1枚天体望遠鏡400年」ポスターの監修を担当した。
- ◇ 創立100周年記念出版事業編集委員会：
2002年以来日本天文学会が総力を挙げて推進してきた創立100周年記念出版事業「シリーズ現代の天文学」全17巻(執筆者延べ264名)の刊行が2009年12月をもって完了した。本事業は篤志家のご寄付が基になっているものであるが、編集委員、執筆者、日本天文学会執行部、日本評論社側編集者、事務作業担当者、が全員一丸となって取り組み成し得た成果である。2009年12月20日には本シリーズ完結を記念して、日本天文学会主催で一般向けのシンポジウム「現代天文学の最前線」を東京大学小柴ホールにおいて開催した。約120名の参加者があり、多数の質疑応答も行われ盛況であった。
- ◇ ジュニアセッション実行委員会：2009年度日本天文学会春季年会において、第11回ジュニアセッションを開催した。3月26日に行われた口頭発表では47件の発表があり、ポスターのみの発表の4件を含めると、合計51件の発表があった。発表件数が多かったために1件あたりの発表時間は4分と短くなってしまったが、すべてポスターでも発表をしてもらい、1時間のポスターセッションを2回行った。タイからも生徒が来日して英語で発表がなされた。また、ジュニアセッション第2部として、高校生天体観測ネットワークの全国フォーラムとの共催で交流会を行ったり、特別企画としての天体観望会や、「はやぶさ」映画試写会もあった。2009年度日本天文学会秋季年会においては、ポスター発表のみのジュニアセッションを行い3件の発表があった。
- ◇ 男女共同参画委員会：多様な構成メンバーがそれぞれの力を発揮して天文学会のより一層の活性化を図ることができるよう、共同参画の努力をまとめ、対外的な活動の窓口としても活動している。2009年度は「夢は宇宙を翔る 星空巡業プロジェクト」と銘打ち、科学技術振興機構の助成を得て、女子中高生向けに「君もガリレオ」体験や講演会を多数実施、また国立女性教育会館主催の女子中高生夏の学校にも参加し、世界天文年を周知する活動の一翼も担えた。
- ◇ 衛星設計コンテスト推進委員会：第17回衛星設計コンテストに参加し(共催としては3回目)、首都大学東京のチーム(代表：寅谷 敬紀氏)の「太陽偏光分光観測衛星『FLARE』」に、日本天文学会賞を贈った。

2. 学術交流費

賛助会員会費を使って、大学院生等の年会における研究成果発表の際に、旅費の一部補助を行う制度である。2009年度の春季年会は大阪府立大学（大阪府堺市）、秋季年会は山口大学（山口市）で開催された。本年度は発表者67名に対して1,443千円の旅費補助を行った。

3. 業務委託の契約 独立行政法人 科学技術振興機構(JST)

JSTと女子中高生の理系進路選択支援事業の業務委託を契約し、300万円の委託費を受けた(代表者:男女共同参画委員会 林 左絵子。事業名:光速で翔ぼう、新世紀のガリレオたち- マイ望遠鏡を通してみる天文台の仕事)。生涯教育施設や学校で出前授業・特別講演・小型望遠鏡工作・星空観望などを行い、本年170万円を執行し残りは明年1~3月に執行する。約半年の支援事業を行い、世界天文年とあいまって思った以上の反響が得られている。

4. 共催・後援等

国際・国内シンポジウムなどの共催2件、後援12件、協賛12件を行った。

承認月日	共催・後援名等	相手方	期間	開催場所等	備考
26)	09.11.12.	日本地球惑星科学連合2010年大会	協賛	大会委員長 平原 和朗	
	10.5.23-28(金)	幕張メッセ国際会議場			
25)	09.10.30.	第35回光学シンポジウム	協賛	幹事長 谷田貝 豊彦	
	10.7.8.-9(金)	東大・生産技術研究所コンベンションホール			
24)	09.10.28.	世界天文年2009 グランドフィナーレ	後援	2009日本委員会委員長 海部 宣男	
	12月5日(土)、6日	兵庫県公館等			
23)	09.10.23.	第5回光応用新産業創出フォーラム	協賛	委員長 谷田 純	
	2010.2.26.(金)	慶応大・三田			
22)	09.10.23.	(社)プラズマ・核融合学会 第22回専門講習会「プラズマ・核融合分野での計算機シミュレーション技法とその応用」	協賛	会長 木島 修	
	12月16日(水)	10時~17時 東京大学山上会館			
21)	09.10.13.	「第43回光学五学会関西支部連合後援会」	協賛	光学五学会関西支部 広報担当 長島 健	
	2010.1.30(土)	10:35~17:00 大阪市立大学			
20)	09.10.01	「宙博(そらはく)2009」	後援名義	宙博2009実行委員会委員長 海部 宣男	
	12.3-.6.	東京国際フォーラム			
19)	09.09.24.	可視化情報学会 全国講演会(米沢2009)	協賛	(社)可視化情報学会会長 青木 克己	
	10.24.-25	山形大学・米沢			
18)	09.09.08.	「21回天文冬の陣」	後援	第21回天文冬の陣実行委員会 委員長 榎本 孝之	
	21.12.27-28	国立オリンピック記念青少年総合C			
17)	09.08.17.	「APFA2009 and APPTC2009」	協賛	(社)プラズマ・核融合学会 会長 木島 修	
	09.10.27~30(金)	青森市男女共同参画プラザ			
16)	09.08.13.	第10回「こどものためのジオ・カーニバル」	後援	代表者 山下 晃	
	11.7.-8.	大阪市立科学館			
15)	09.08.05.	国際光工学会「SPIE2010 (SanDiego)」	後援	家 正則氏ご依頼	
14)	09.07.10.	平成21年度「三鷹・星と宇宙の日」~天文学と望遠鏡の400年~(旧特別公開)	後援	天文台長 観山 正見 09.10.24.(土)10~19時	
13)	09.07.06.	日本放射光学会 「第1回放射光基礎講習会」	後援	会長 雨宮 慶幸	
	09年9月7日(月)	9:30~17:30 東大・本郷			
12)	09.06.22.	「第七回 ジャパン・サイエンス & エンジニアリング・チャレンジ2009」(JSEC2009)~高校生“科学技術”チャレンジ~	後援	朝日新聞社 社長 秋山 耿太郎	
	21.9.1.~21.12.12.	日本科学未来館			
11)	09.06.22.	第23回天文教育研究会(天文教育研究普及会年会)	後援	実行委員長 有本 淳一	
	8.9.-11.	開法会館(西本願寺宿坊)			
10)	09.0.10.	「2009年度高校生天体観測会」	共催	運営委員長 渡部 潤一	
9)	09.06.05.	物理学会 科学セミナー「環境・エネルギー問題~発信する基礎科学」	協賛	会長 二宮 正夫 8.22.-23(日) 東大・駒場・18館ホール	
8)	09.05.30.	「2009皆既日食 中学生・高校生合同観測会」	後援	鹿児島県立博物館長	

- 黒江 修一 7.20.-22 奄美少年自然の家 (担当者:前田氏に5/30 tel で承認した)
- 7) 09.05.30. 第27回レーザセンシングシンポジウム 協賛 幹事 水谷 耕平
9.3.-4 ホテルエピナール那須
 - 6) 09.05.20. 「青少年のための科学の祭典2009」 後援 会長 有馬 朗人
8月を中心に全国各地 (財)日本科学技術振興財団
 - 5) 09.05.21. 「世界天文年全国同時七夕講演会」主催・共催・後援 関西科学塾長 柴田 一成
 - 4) 09.05.18. 「第37回可視化情報シンポジウム」 協賛 会長 阿倍 栄一
09.7.21.~22.(水) 工学院大学(新宿交社)
 - 3) 09.05.11. 「日本流体力学 年会2009」 協賛 流体力学会長 宮内 敏雄
9/2-4 東洋大学・白山
 - 2) 09.05.11. Optics & Photonics Japan 2009 協賛 日本光学会 監事長 谷田貝 豊彦
11.24.~26(木) 朱鷺メッセ:新潟コンベンション
 - 1) 09.04.30. 第5回天文学の普及をめざすワークショップ 後援
天文情報センター(伊東) 10/11-/13 岡山天体物理観測所他

5. 民間の賞及び研究助成

各種の賞および研究助成のお知らせを、天文月報・学会ホームページで掲載(16件)した。当会の推薦として、賞4件(朝日賞2、井上學術賞1、東レ科学技術賞1)、研究助成3件(山田科学振興 研究援助1、東レ科学技術研究助成2)を行った。井上學術賞については当会推薦者から1名受賞者が出た。

6. その他

会員からのPASJ 寄贈86部のうち43部を発展途上国及びPASJ 購入困難な国に寄贈(26ヶ国)している。

会 員 数

2009年12月31日現在の会員数は以下の通りである。

2008年12月31日	正会員(内学生)	準会員	団体会員	賛助会員	合 計
	1,694(307)	1,224	38	36	2,992
入 会	134(112)	34	0	1	169
退 会	77(34)	74	0	3	154
移 籍 (増)	5(4)	29			
移 籍 (減)	29(5)	5			
正会員へ(学生減)	(47)				
2009年12月31日	1,727(337)	1,208	38	34	3,007

(注: 移籍とは正会員、準会員との間の移動のことを指す)

定款第12条に基づき、1月31日の評議員会議決を経て、正会員20名(内学生7名)、準会員11名が2007年度からの会費未納のため除名された。

(文責 庶務理事: 竹田 洋一)